

# 1. 評価結果概要表

平成 20年 10月 2日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2072200625		
法人名	社会福祉法人 大樹会		
事業所名	グループホーム レポートあおき		
所在地	長野県小県郡青木村大字田沢3404-4 (電話) 0268-37-3770		
評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成20年9月24日	評価確定日	平成20年10月16日

【情報提供票より】( 20年 8月 11日 事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 4月 16日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤8人	非常勤0人 常勤換算7人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨一部鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての	2 階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	22,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,100 円

### (4) 利用者の概要 ( 8月 11日 現在)

利用者人数	6 名	男性	1 名	女性	5 名	
要介護1	1名	要介護2	2名			
要介護3	2名	要介護4				
要介護5	1名	要支援2				
年齢	平均	83.3 歳	最低	74 歳	最高	87 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	丸子中央総合病院、青木診療所、青木歯科医院
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

三方を山に囲まれた青木村の中心部に位置し、近くには村役場、学校があり、懐かしい山里の風景が展開される中に、グループホームレポートあおきは存在している。村内唯一の複合福祉施設であり、村内からの熱い期待のまなざしを一身に受けて、行政にとっては村の福祉施策を実現するための大切な要となっている。複合施設であるからの良さを持ちながら、入居者やご家族の願いや思いを実現するため、終末期の介護、入居者と一緒に行う各種作業と日々努力を重ねている。グループホームのネットワークの繋がりも良く、広い視野でホームの運営がなされている。異動、重度化で実現できなかったこともあったが20年度の中で新たな出発を期している。地域に見守られ、理解され、支援されるホームのために、さらなる努力を始めている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善課題の中、職員による評価、研修への参加は改善されおり、食事の挨拶等は入居者個々の思いを実現している。職員の離職減少への工夫は改善に向けて努力中であり、たよりへの新職員紹介は掲載するタイミングのズレにより実現できなかったが、今後は離職者減少に歯止めをかけ、たよりへ掲載する旨を伺った。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価は全職員で取り組み、自己評価すること、評価されることの意義を理解し、それらを活用する方向で努力している。評価表を壁に貼って、都度気持ちを新たにして、評価を一時的なものにすることなく継続的に粘り強く対応している姿勢が伺えた。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>理想的な構成メンバーで会議は推進されていたが、会議運営上の疑義で現在は中断状態である。地域密着型サービスの本旨に立ち返り、地域からの認知、支援協力を柱にして、入居者にとって必要なホームであるだけでなく、地域にとっても必要不可欠なホームであると認識してもらえよう、運営推進会議の再開に向けての努力が必要であるが、現在鋭意、模索検討中であることを伺い、大いなる期待を持つことができた。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>年4回のたよりを発行し、ホームの今の状態を理解してもらい、面会時、家族会等を活用し、ご家族の声を聞く機会を設け、今後のサービスにつなげている。事業所の受け入れの姿勢をご家族から認められて、設置されているご意見箱に頼らずに、直接要望等を言ってくるケースが多いことを伺った。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の運動会や、併設の介護老人福祉施設に来る、保育園児、小、中学生との交流はあるが、日常的な外出、買い物等を通じての、ホームから積極的に働きかける努力は少ない。知名度や利用度の高い他の福祉施設の陰になりやすいが、認知症の専門職であることを各種機関を活用して自己主張や宣伝などの活発な働きかけをし、地域の中に溶け込み、地域住民の認知症介護の支えになり、ホームの理解度を高めることを期待します。</p>

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>1. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着に対応した事業所独自の理念(地域の中で、その人らしく、安心した生活の支援)を作り上げ、その理念が見やすい位置に掲げてあった。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	採用時に説明し、その後は会議の中や掲示にて確認をしている。月1度の職員会議等を活用し、常に理念を確認し、迷った時には、この理念に立ち返るよう話し合っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の運動会に参加したり、併設施設に来る保育園児、小、中学生と交流している。重度化のため、ホームから地域へ出掛けての交流は少ない状況であることを伺った。		地域密着型サービスの本旨は地域とつながりながら暮らしていくことであるので、ホームから積極的に地域に出掛けて行く事を望みます。重度化の傾向も解消されつつあるので各種の工夫(外出、買い物、祭り等地域行事の参加、地域での認知症講習)を期待します。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価は全職員で取り組み、自ら評価すること、外部から評価されることの意義を理解し、評価内容をサービス向上につなげる努力をしている。評価表は壁に貼り継続的に、粘り強く改善へ向けて対応している。		

社会福祉法人大樹会グループホームレポートあおき

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>19年度は構成メンバーも基準に沿い、会議も活発に意見交換されていたが、20年度は会議運営上の疑義があり開催されていない。</p>		<p>運営推進会議は地域から認知されるため必要不可欠のものである。事業所の現況、評価等を説明する中から素朴な意見や疑問を聞いて、それらに応えていくことにより、地域から認められる事業所になってゆくものと思います。さらに構成員にとっても参加しやすく、有意義な会議になるよう会議運営の一層の工夫を望みます。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>事業所内に包括支援センターがあり、月1回の地域ケア会議もあり、さらに村内唯一の福祉施設のため、接触度は密なものがあり、そのために村役場からの期待度、要求度も多い現状である。</p>		<p>私的法人と公的行政とは自ずと思いの違いが生じやすいが、常に考え方や実態を共有し、利用されるお年寄りの思いや願いを第一義的に考えて、法人の考え、行政の狙いの一方に偏ることの無いような連携を望みます。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>年4回のたより発行や面会時、家族会等を活用して暮らしぶりを報告し、来られないご家族には月1～2回、電話で様子を報告している。金銭管理状況は面会時に報告し、確認印を頂いている。職員の異動については採用、退職のタイミングがズレて報告できなかったケースが多かった旨を伺った。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時や家族会で意見、要望を聞く場を設けている。ご意見箱も用意されているが、意外と直接要望等を言ってくるご家族が多いことを伺い、事業所に対するご家族の信頼度を感じた。なお、出された意見は検討し改善に努めている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>事業所内異動や個人の理由による離職のため、職員の異動は多かったが最小限に留める努力をされていることを伺った。又、新しい職員には1か月、様子を見ながらトレーナーが付き、入居者の不安を解消している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人全体で年間テーマを決めて勉強会(週1回・有志出席)を行っている。外部研修は提案された内容を聞いて参加希望者が出席している。研修後は報告書を作成し、会議で発表会を行っている。研修には積極的に取り組んでいる姿勢が伺えた。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会、近隣地域グループホーム会に入会し、情報交換、事業所訪問を行い、活発な交流をして自らの事業所のサービスの質の向上に努めている。グループホームは孤立化や独善になりやすいので、このネットワークの活用は有意義なものと感じた。</p>		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>事前面接時の会話を大切に、信頼関係、馴染みの関係作りを行っている。相談があれば出向いてご家族や本人との会話の機会も設けている。病院からいきなり入居し、4年ほど掛けて信頼関係作りをした例を聞き、入居者から目をそらさない暖かいまなざしや粘り強い事業所の姿勢を感じた。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者のペースに合わせてながら一緒に笑ったり、楽しんだりしている。常に人格を尊重し、昔の話などを取り入れながら入居者が落ち着く話題を大切にしている。知的障害のある入居者対応には困難が多かったが良い経験になったとの話を伺い、経験をバネにするたくましさを感じた。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>会話や日々の暮らしぶり、今までの生活歴の中から思いを汲み取り支援している。又、ご家族からも話を聞いて思いや意向の把握に努めており、入居者の介護を事業所だけが担うのではなく、ご家族を共に支えあう一員と位置付けているように感じた。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日々の記録、職員からの情報、月1度のカンファレンス、家族からの情報をもとにしてその現況に添った介護計画を作成している。計画書は職員への共有化を図り、家族には面会時等を活用して確認を取っている。なお、介護計画の課題把握の方式を再検討中であることを伺った。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>状況が変わったり、家族や本人からの要望意見があれば臨機応変に見直しを行っている。3ヵ月に1度は介護計画書の見直しを行い、家族からの確認サインを頂いている。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>併設介護老人福祉施設の看護師の協力を得て、医療連携体制は整っていて、入院の際には定期的に面会に行き、早期退院に向けての努力をしている。ご家族の宿泊施設もあり多機能性を活かした支援が出来ている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居者のかかりつけ医との連携を重視し、通院等にはご家族の協力を得るようにしている。又、事業所の嘱託医の往診を入居者、ご家族の了解を得て週2回受け、健康面に関して安心して暮らしていける環境を作っている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居契約時に終末期の対応の話し合いをしている。終末期ケアの指針に基づいて、入院はさせたくないというご家族の希望に副い、数人の終末期対応を行った。ご家族の思いのゆらぎや入居者の親族の声もあり、それらの対応にも精力的に努力した旨を伺った。入居者の尊厳を大切に、さらに家族等にも充分配慮している姿勢が感じられた。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>採用時に個人情報の取り扱い等の指導をしている。さりげない言葉がけなどは外部からの意見を大切にしている。何気なく入居者を名前で呼んでしまっているケースもあったので、これからは、明るく苗字で声掛けするよう心掛ける旨を伺った。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な一日の流れはあるが、本人の思いや希望を叶えるよう支援し、入居者一人ひとりのペースで生活ができるよう見守り支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化のため一時、食事作りは中断したが、入退居により徐々に復活させつつある。食事は会話をしながら楽しい雰囲気になるよう工夫し、各人のできる範囲での準備、片付けを職員と一緒にしている。調査日は彼岸でもあり、昼食におはぎを入居者が作ってくれておいしく頂いた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回以上入浴できるようにしている。中には毎日入浴している入居者もいた。重度者は併設介護老人福祉施設の寝浴を活用している。今後は近くにある温泉を利用する計画を検討中であることを伺い、入浴を楽しみの一つに位置づけている姿勢を感じた。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの力量に応じて洗濯物干しやたたみ、食器洗い、新聞折り、縫い物などをお願いしている。併設施設での出張販売に出かけたり、時には墓参りをするなど入居者の気晴らしとなることにも取り組んでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	敷地内の散歩や事業所を一回り囲むテラスの散歩は毎日行っている。2～3ヵ月に1度は外出に出かけたり、戸倉方面まで出かけることはあるが、職員配置の関係で日常的な敷地外への外出支援には困難が多いことを伺った。		外出は気分転換、ストレス発散、五感の刺激の機会として又地域住民から理解、支援されるためにも敷地外への散歩は重要である。ボランティア、併設施業所、行政の協力や支援を依頼するなどの工夫をして日常的に戸外に出掛けることを期待します。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解し、鍵をかけないようにしている。一方、常に入居者の状態を把握して、見守りを怠りなくして事故の未然防止に努力をしている。		

社会福祉法人大樹会グループホームレポートあおき

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回法人全体の避難訓練を実施している。地域の消防団との連携があり、夜間は併設の介護老人福祉施設との協力体制があり、単独事業所よりは安心感が持てる状態にある。災害時連絡先も明記されており、年1回の救急法の勉強会も行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の栄養士による献立を使っている。食事量や水分量は毎日チェック表に記録している。これまでは入居者の重度化のため併設施設の調理した食事を全面的に使っていたが、徐々に利用する料理を減らしながら、今後は事業所単独で調理していく方向であることを伺った。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂のテーブルには季節の花が飾られ、壁には行事の写真、行事の案内があり、書道の作品も展示され、採光は充分であり、ゆったり明るい雰囲気であった。トイレ、浴室は清潔で広く、ホームの外周にテラスがあり、山、家並み、田、畑が一望でき居心地よく過ごせる空間となっていた。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス、仏壇、写真等馴染みのものがおかれ、採光、広さ、窓からの景色、出入り等、のんびり、ゆったり過ごせる居室となっていた。1室だけ他人が出入りするの嫌だといって部屋に居ない時は入り口をひもで結わえていたが、入居者自身が自分の居室を大切にしていることと事業所がプライバシーと一人ひとりの思いを尊重していることを感じた。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。